

第32回全国環整連全国大会 in IWATE

(大会式典/10月19日、大会本会議/10月20日)



大会宣言

全国環整連は地方自治体が策定した廃棄物処理計画に基づき、廃棄物の計画的な適正処理に邁進する。

浄化槽の維持管理に於いては「全国環整連維持管理システム」の完全実施による水環境の保全を図り、下水道により弱体化する地方自治体の財政負担を浄化槽によって軽減することを社会的使命とすることを大会宣言とする。

平成18年10月20日

全国環境整備事業協同組合連合会
第32回 全国大会

政府に対する要望決議

日本は、世界に類を見ない経済大国に成長し、物価と所得は常に上昇し、人口の増加と消費の拡大、バブル時においては永遠の繁栄があるかのように国全体が錯覚していた。そのバブルの崩壊によってできた大きな付けに、国、地方自治体、企業、個人は今なお、悩まされている。経済政策の誤りは、新たな問題を惹起し将来に禍根を残すことを証明した。

下水道政策は、多額の投資と管理費用を必要とする。自治体は、借金を重ね管路を今日も延ばし続けている。国の役人には今こそ省益を忘れ、国益最優先の使命感を求める。

また、最近の事件としてエレベーターの事故は競争原理を優先した入札制度の欠陥が吹き出たものである。すなわち落札した会社は保守点検すら満足に行わず、その結果死者も出してしまった。「安かろう悪かろう」が露呈した結果である。

一般廃棄物の処理業務委託にも入札制度の導入が始まっている。

以上の認識を踏まえて以下のことを要望する。

記

- 1 浄化槽を国家の財産とみなし、設置済み浄化槽(合併)を下水道に繋ぎ込む必要な施設として制度の整備をされること。
- 2 下水道経営の健全化を図るよう国土交通省から「下水道経営に関する留意事項等について」また総務省から「平成18年度地方財政の運営について」が発出されたが、これ以上国及び地方の借金が増えることのないよう下水道管理者に対し、指導の確認及びその後の検証をされること。
- 3 阪神・淡路大震災及び中越地震の被災地におけるライフラインの確保には浄化槽が有効であることが立証された。このことから、避難指定場所には浄化槽の設置を義務付けされること。
- 4 一般廃棄物の処理計画未策定市町村に対し、適正処理を後退させることがない処理計画策定の指導徹底をされること。
- 5 合理化事業計画の未策定、合特法の目的から逸脱した補償などがないよう、市町村に対し指導の徹底をされること。
- 6 中小零細業者を対象とした価格のみを競う入札行為は、落札者は原価を割った契約の履行に苦しみ、落札できなかつた者は会社が立ちゆかなくなる。入札制度は万能でなくなったといえる。新たな契約方法を早急に確立されること。

以上

第32回全国大会スローガン

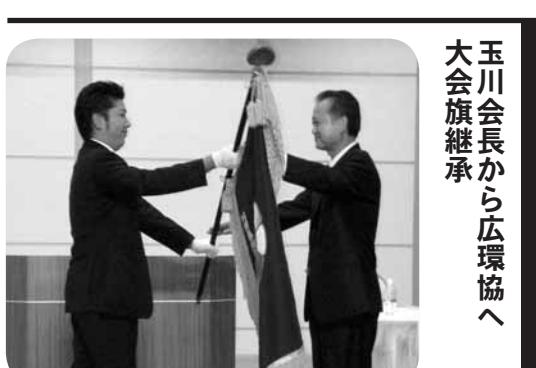
- 一、浄化槽を国家の財産とみなし、設置済み浄化槽(合併)を下水道に繋ぎ込む必要な施設としての制度の確立
- 一、下水道料金の値上げの必要性について、議会、住民に対し理解しやすい情報公開の徹底
- 一、浄化槽は地震に強く、被災者のライフラインの確保が立証されている。住民のライフライン確保の観点から、避難指定場所には浄化槽設置の義務付けの徹底
- 一、一般廃棄物の処理計画未策定市町村における適正処理を後退させることのない処理計画策定の完全達成
- 一、全国環整連グランドルールによる廃棄物処理の安定的継続の確保
- 一、市場原理主義に基づく価格のみを競う入札制度の撤廃
- 一、不法、不当な新規許可の絶対阻止
- 一、12回点検・5分間点検の一掃と「保守点検の技術上の基準」に照らした違法業者の一掃及び罰則の強化をし、全国環整連浄化槽維持管理システムの実施
- 一、浄化槽に警報機能付きプロアーの義務付けの徹底
- 一、環境省認証のエコアクション21の取得

以上

二〇〇六年十月十九日(木)と二十日(金)の二日間で、岩手県盛岡市内の盛岡グランドホテルにおいて、第三十二回全国環整連全国大会が開催されました。大会は、総勢千八十八名の参加者で行われ、広環協から、黒瀬理事長はじめ、六十二名参加し、初日の十九日は、「水環境革命」環境浄化槽について参議院議員弘友和夫氏、また、環境省農林水産省、国交省の各省庁より、講演がありました。また、講演終了後同じ会場にて、大会式典が行われ、恒例の優良役員・従業員表彰等が厳粛に行われました。この後、盛大に懇親会が行われ、各参加者は、懇親を深めました。二十日は、環整連の「方針」及び「大会会議」が行われ、方針では、全国環整連の各部会より、事業方針等が発表され、閉会まで、滞りなく大会は成功裏に終了いたしました。また、大会旗としてこの度二〇〇六年の岩手県から、次の二〇〇七年の開催地である、当広島県が、大会旗を継承しました。



第33回全国大会
in HIROSHIMAのPRをする
大会旗継承
する鉄本大会実行委員長



合理化新規許可対策部会の方針を
発表する部会長の黒瀬理事長

